

はじめに

変化の激しい現代社会において、柔軟に対応し、創造的でたくましく生きていく児童生徒の育成が求められています。そのために学校においては、自ら学び自ら考える力などの「確かな学力」、他人を思いやる心や感動する心などの「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康や体力」の3つからなる「生きる力」の育成を基本方針として、様々な教育活動に取り組まれているところかと思えます。

さて、いわゆる学力低下が論議を呼んでいます、「健康や体力」を示す一指標である体力・運動能力も昭和60年頃から低下傾向にあり、大きな課題となっております。

体力向上に取り組むことは、速く走ったり遠くに投げたりすることなど身体的要素としての機能を高めることと同時に、物事に積極的に取り組む姿勢や苦しいことにも果敢に粘り強く挑戦する気持ちなど、精神的要素である意志・意欲を醸成することに他なりません。したがって、体力は「確かな学力」や「豊かな人間性」の育成に密接に関連し、それらの育成に大きな役割を果たしているといえます。「精神的な体力」も含めて児童生徒の体力向上を図っていくことは、生きる力を備えた人材を育成する上で、今後一層重要になると考えております。

本県では、児童生徒の体力向上を重点施策の一つに掲げ、平成17年度には体力・運動能力調査校を拡大し、平成18年度には、公立小・中・高等学校全校での調査を予定しております。これまでも増して学校・家庭・地域社会が問題意識を持って連携し、身体的にも精神的にも生き生きと活力ある児童生徒が育成されることを期待しております。

終わりになりますが、本調査にご協力いただいた各学校、そして、本報告書作成にご尽力いただきました先生方に深く感謝申し上げます。

平成17年3月

石川県教育長 山岸 勇